

小島 正幸 病院長 インタビュー！

今回、県北西部地域唯一の中核病院「常陸大宮済生会病院」の小島 正幸病院長に、プライベートな事から地域医療などについてお話を伺いました。

- Q. 出身地は？ A. 茨城県です。
- Q. 趣味は？ A. 学生時代はラグビーをやっていました。2019年のワールドカップも観戦してきました。その他には、4年くらい前に大型バイクの免許を取得しました。最近は出かけていませんが、緊急事態宣言前は、仲間と出かけるなど、ツーリングを楽しみました。
- Q. 医師を目指したきっかけは？ A. 親戚に医師がいたということもありましたが、中学校の卒業式当日、同級生が喘息発作を起こし、亡くなりました。そのころから、人を助けること、人の命を守りたいという気持ちが強くなり、医療への道を選びました。
- Q. 好きな言葉や座右の銘は？ A. 座右の銘は、「禍福は糾^かえる縄^あのごとし」
悪い事があってもよくよせず、前向きに考えれば、必ず良い事はやってくる
と自分自身心に刻み続けています。
診療に対しては、ベンジャミン・ディズレーリが残した言葉で「最悪の事態に備え、最良の事態を期待する」という考えのもと、日々の医療と向き合っています。
- Q. 専門分野・得意分野は？ A. 専門分野は、消化器外科。自治医科大学卒業生の義務として茨城県内の医療機関で勤務後、自治医大外科に入局しました。その後、県内では日立総合病院外科にも2年間勤務し、手術を中心とした日々を過ごしました。
腹腔鏡手術については、技術認定制度が始まった平成17年に技術認定を取得しました。常陸大宮済生会病院に勤務となったとき、茨城県では、3人目の技術認定取得者でした。
- Q. 地域医療への思い A. 自治医大の校歌に、「医療の谷間へ灯をともす」という言葉があります。学生の時から、医療の届かない地域や医療を受けることができずに困っている方々のために、頑張っていきたいという思いが強くなりました。当院でも「患者中心の医療」「安全で質の高い医療」「地域に開かれた病院」を基本理念とし、地域の皆さんが安心して暮らしていけるよう、今後も地域医療に貢献していきたいと思っています。



経 歴

- ・出身校：自治医科大学
- ・茨城県立中央病院にて初期研修
- ・利根町国保診療所
- ・小川町国保中央病院
- ・友部町国保病院
- ・自治医科大学
消化器一般外科入局
- ・日立製作所日立総合病院
- ・University of Pittsburgh
Department of pathology
- ・小山市民病院
- ・常陸大宮済生会病院
2006年4月診療部長
2009年4月副院長
2018年4月病院長